

外部評価基準の導入 —TOEIC TEST への試み—

Introduction of Standards External Evaluation for English Education
— for TOEIC TEST —

五島 正夫

神奈川歯科大学 言語情報・人文学講座 英語学分野

Masao Goto

Department of English, Kanagawa Dental University

序

平成25年度より神奈川歯科大学では英語に関しても、「外部評価基準の導入」を視野に TOEIC TEST を導入することが決まった。何時受験をさせるのか、何回受験をさせるのか、受験料はどこで出す、受験料結果をどのように評価に加味するか等解決すべきことが多く出てきたので、平成25年度は TOEIC TEST 向けの教科書を用いて授業をしたのみで TOEIC TEST 受験に至らなかった。

同時に平成25年度より5学期制を取り入れ、名称はそれぞれの学期を Stage 1・2・3・4・5 とした。語学の授業として4月から5月中旬までの Stage 1 で「歯科医学への誘い」中の語学(英語)は小グループ(約15名)の授業で全4回、一日4コマ続きの授業があった。加えて週1回の外国語 I (英語)の授業が Stage 1 から4まで続けてあった。このクラスは約25名クラスで筆者とネイティブの先生の二人で同時並行に行った。

「歯科医学への誘い」中の語学(英語)の1限から4限までの続いた授業への対処として1・2限を筆者が受け持ち、3・4限をネイティブの先生が受け持つことにした。これは学生にとっても、今まで1コマ90分(75分)で授業をまとめてきた、教

員にとっても大変なこと(未経験)であった。一日4コマ語学の授業は英文科や語学の専門学校の場合にはよくあることである。筆者が20数年前に都下のある大学で、経験した新入生(1年生約500人)を8月よりアメリカの複数の大学に半年間の留学をさせた経験がある。この大学では、4月から7月まで週2日午前中の2コマを45分刻みの4コマにして、各クラスをネイティブの先生と日本人の英語の教員がペアになって教えた。留学が修了するとまた留学後をケアする授業があった。留学後の授業はユニークでとても有効だったのを覚えている。留学を前提としないで、英語を1日4コマ(9時から4時20分)という本学の試みは新たな体験であり挑戦であった。

この小論は新カリキュラムを履修した平成25年度の1年生と次年度(平成26年度)の1・2年生を対象とした。

平成26年度

即 TOEIC TEST という声もあったが、直接学生と英語の授業で接している担当者として踏み切れずに、プレ TOEIC TEST というべき TOEIC Bridge

TEST を4月と12月の2回受験させることに落ち着いていた。4月のBridge TESTはすでに2年生になっている平成25年度1年生の成果を確認することであり、新1年生に関してはプレイスメントテストの役割を兼ねていた。2年生は昨年の12月に英語の授業は終わり、丸4か月のブランクがあつての受験であり、英語の授業は9月から10月にかけてのStage 3の10コマが2年生に割り当てられた時間であった。そして12月にまたBridge TESTが巡ってくるというあまり条件の良くない受験環境であった。

Bridge TEST 受験の環境を整える準備は着実に進展したが、受験料徴収方法（どの項目入れるか）も頭の痛い問題であった。受験料徴収方法の案がいくつか出たが、最終的には、4月・12月の受験の前に学生が本学のKDC株式会社に納めることに決まった。下記（文面のみ引用）が、平成26年3月に学長名で学費負担者に教科書目録等の資料と共に「TOEIC Bridge TEST 受験料の負担について（お願い）」というタイトルで送付され新年度（平成26年度）を迎えることになった。

1・2年生学費負担者 各位

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃より本学学事にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本学では1年生「歯科医学への誘い」や外国語（英語）でTOEIC TESTの受験を目標に取り組んでまいりましたが、新年度（平成26年度）より1・2年生の外国語（英語Ⅰ・英語Ⅱ）の授業でTOEIC Bridge TESTを実施する運びとなりました。

医学・歯学分野でも外国の患者さんとのコミュニケーション、英語文献の理解等の英語力が必要とされております。また、ご存知の通り歯科医師国家試験には毎回英語力を問う問題が出題されております。このような現状を踏まえて共用試験（OSCE・CBT）と同様に、学生の

外国語（英語）能力に対する対外的な評価基準を導入するものです。新年度シラバスに記入済みですが、4月17日と12月19日の2回の本学でのTOEIC Bridge TEST 受験が外国語（英語Ⅰ・英語Ⅱ）の単位認定の条件になります。なお、留学生で日本語検定（N1・N2）を受験する者は、この受験の対象になりません。

つきましては、受験料として、下記のご負担をお願いいたします。

敬具

実際 Bridge TEST 受験の1週間前の受験料の徴収は想像通り大変であったが、2回めも同様の徴収方法をとった。

TOEIC Bridge TEST

平成26年度のシラバスは実際にはTOEIC Bridge TESTを受けるのだが、授業内容はTOEIC TESTの受験を目指す本格的なものとなった。まずテスト結果をどのように成績に反映させるかという問題があった。平成25年度からの英語の新シラバスは「対外的な評価基準を導入」が中心になっているので、前出の学費負担者宛の文面にある「2回の本学でのTOEIC Bridge TEST 受験が外国語（英語Ⅰ・英語Ⅱ）の単位認定の条件になります」で落ちついた。

1年生の外国語Ⅰ（英語）のコマ数はStage 1 - 12コマ、Stage 2 - 6コマ・Stage 3 - 5コマ・Stage 4 - 12コマで合計35コマの授業が組まれた。ネイティブの先生が定年退職で3月末日にお辞めになったので、ベテランの非常勤の先生をお願いすることになった。1年生の授業は、4月よりこの先生と筆者の二人三脚の一年が始まった。

2年生の外国語Ⅱ（英語）はStage 3に週2回合計10コマの授業が予定された。外国語Ⅱ（英語）は週二日にまたがることや9月から10月の第2週までと期間が限定されているために非常勤講師の手配が付かなかった。やむを得ず筆者が一人で授業を

受け持つことになった。

4月17日（木）の5限・6限に1・2年生とも同時に受験させた。慎重に受験会場（2会場）等の準備を進めたつもりであったが、一方の会場でCDの再生音に不備があった。音声に関してはソフト・ハード共に予備を備えていたので、事なきを得た。2会場とも順調に進みほぼ5限（16：30～18：00）内で終了した。1・2年生で1名の欠席者がいた。該当学生にはBridge TESTの公開テストを受験するように指示した。

対外的な評価基準として、本学ではBridge TESTを選び、その結果が出た。この小論は公になるので結果は大まかな所を記すにとどめる。Bridge TESTのスコアは満点が180点で1・2年生の中で上は178点で、下は50点台であった。筆者はこの点数の開きのある学生を同じ教室で教えていることの大変さを改めて実感した。

受験者に渡されるBridge TESTのスコア・レポート中には「TOEIC Bridge150点以上を取得した方で英語能力に関してさらに詳しく情報を得たい方にはTOEICテストの受験を勧めています」と載っている。本学担当の協会方に伺ったところTOEIC BridgeとTOEIC TESTの比較表があるが、150点以上だと比較は不可能とのことだった。シラバス中で2回のBridge TEST受験を謳っているのに、今更TOEIC TEST受験に変えられない。苦肉の策として、希望学生は2回目のTOEIC Bridge受験時にTOEIC TESTを受験できるようにした。Stage 3の9月に1年生・2年生とも授業中に十分な説明（点数に関わりなく受験可）を行った後に、事後試験の解答用紙中に下記のアンケートを行った。

12月にはBridge TEST（2915円）が実施されます。同日希望者にはTOEIC TEST（4155円）を受験できるように計画しています。差額は1240円です。希望する学生がおりましたら下記「希望する」を○で囲ってください。

高スコアの学生には声かけをしたので、最終的に

TOEIC TEST希望者は1・2年生で19名になった。

Bridge TEST & TOEIC TEST

時間割の都合で12月19日（金）予定が12月18日（木）に変更になり、午前中にTOEIC TEST、午後Bridge TESTが行われた。TOEIC TESTを受験させることは今回が初めてであったので、前回のBridge TESTの経験を踏まえて実施したが、実施させる側としての緊張があった。午前・午後共問題なく終了した。ただ、TOEIC TESTの遅刻学生はBridge TESTを受験させ、Bridge TESTの遅刻学生は、Bridge TEST終了後直ぐに同じタイムスケジュールで受験させた。今回も数名の欠席者がいたので、公開のBridge TEST受験を指示した。

意図したわけではないが、Bridge TESTで高スコアの学生と割合スコアの少ない学生がTOEIC TESTを受験してくれた。9月以降、来年度（平成27年度）はTOEIC TESTのみを1回受験するように検討していたので、結果的には今回の希望者のTOEIC TEST受験は、来年度のTOEIC TEST受験のトライアルになった。また、受験料金徴収方法は教科書同様の扱いでKDC株式会社に振込んでもらう方向で進めることにした。今回12月18日が受験日になったが、12月の中旬以降のTOEIC TESTの実施は年末年始に架かるので、事務手続きの上でも制約があり、あまり条件の良い時期でないことがわかった。

1月早々結果が届いた。4月のBridge TESTのスコアが178点の学生はTOEIC TESTで840点を取っていた。また、前回Bridge TESTで50点台をとった学生は、今回のBridge TESTで120点台までスコアを伸ばしていた。これは前回受験時に体調が悪かったかBridge TESTに慣れた結果だと思われる。

今後の課題

TOEIC TEST の道筋もだいぶできてきた。「外部評価基準の導入」も形式的には導入できたが、これからは内容も伴ったものにして行かなければならない。2度の TOEIC(Bridge) TEST 結果を十分に検討して次年度の授業に生かしてゆくことが教える側の教員に課せられた課題である。歯科大学という専門性の強い大学の中で行う英語教育には色々な選択肢があるはずである。外部評価基準の導入と共に共存できる独自の英語教育を探りたい。TOEIC TEST の導入と共に受験料の負担について(お願い)の中で述べたことを繰り返すが「医学・歯学分野でも外国の患者さんとのコミュニケーション、英語文献の理解等の英語力が必要とされております。また、ご存知の通り歯科医師国家試験には毎回英語力を問う問題が出題されております」を常に念頭に置いてこれからの本学の英語教育の目標を定めなければならない。

現2年生は1年生の時 Stage1 で15名のグループ授業があり、Stage 1 から4まで続けての授業は約25名クラスで行われた。本年度2年になってからは Stage 3 に週2回合計10コマの授業加えて、40名クラスで昨年に比べて条件は良くなかった。しかし、想像していたほどの成績の落ち込みはなかった。これは色々な問題を抱えていたが、1年生の時に小人数クラスで授業が行えたことが良い結果を生んでいるように感じられた。

本学独自の英語教育と前述したが、全国の歯学部 of 英語教育(歯科英語コアカリキュラム)の共同研究も進行中なので広く情報を取り入れてゆきたい。

TOEIC TEST 導入あたって外国語モジュール責任者の窪田光慶先生は力強い推進者になって頂いた。また、非常勤講師の横浜国立大学・石渡圭子先生には平成26年度の1年生の外国語I(英語)を担当して頂き、貴重な助言を賜ったことに感謝したい。

本学教授